

平成23年度募集

集間
募期

6月1日〔水〕～8月31日〔水〕

第5回

塙保己一賞

はなわ

ほ

き

いち

視覚に障害がありながらも大文献集

くんしよるいじやう

『群書類従』を編集・出版した埼玉県

ほんじやうし

本庄市出身の江戸時代後期の学者

はなわほきいち

「塙保己一」。

その精神を受け継ぎ、障害があり

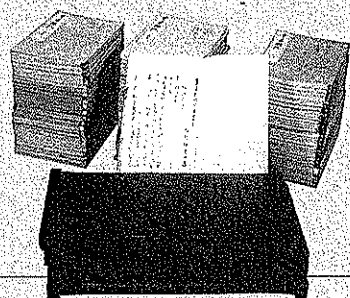
ながらも不屈の努力を続け顕著な活躍

をしている方や、このような障害者

のために様々な貢献をしている方に

はなわほきいち

「塙保己一賞」を贈ります。



主催 埼玉県

共催 本庄市／埼玉県教育委員会

後援 厚生労働省／文部科学省／社団法人温故学会／社会福祉法人全国社会福祉協議会／社会福祉法人日本身体障害者団体連合会／
社会福祉法人日本盲人会連合／社会福祉法人東京ヘレン・ケラー協会／社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会／
特定非営利活動法人埼玉県障害者協議会



埼玉県のマスコット「コバトン」

埼 保 己 一 賞 募 集 要 項

は
な
わ

ほ

き

い

ち

1 対象者

▶ 埼保己一大賞

日本国内に在住し活動する者で、障害がありながらも埼保己一のように不屈の精神力により、社会的に顕著な活躍をしてきた障害のある個人

▶ 埼保己一奨励賞

埼玉県内に在住(在勤・在学)する者又は過去に埼玉県に在住したことがある者で、障害がありながらも努力を重ねており、今後さらに社会的な活躍が期待される40歳未満(平成23年4月1日現在)の障害のある個人

▶ 埼保己一貢献賞

次のいずれかに該当する日本国内に在住し活動する個人又は団体
ア 社会的に顕著な活躍をしている障害者の活動や日常生活等に
献身的な支援を行ってきた
イ 障害者の自立・社会参加の拡大につながる顕著な発明や機器開発等を行った

※これらの賞は視覚障害者だけに限定されたものではありません。
他の障害のある方も是非、御応募ください。

※表彰対象とするにふさわしくない行為があったときは、
表彰の対象としないことがあります。

2 応募方法

「推薦書」及び「候補者調書」に必要事項を記入の上、3の応募先まで送付してください
(郵送・FAX・電子メール可)。推薦は、他薦、自薦を問いません。

※「推薦書」及び「候補者調書」は、次のホームページからダウンロードできます。
<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/hanawa/>

3 応募先

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1
埼玉県福祉部 障害者福祉推進課 埼保己一賞担当
TEL:048-830-3309 FAX:048-830-4789 E-mail:a3310-02@pref.saitama.lg.jp

4 応募期間

平成23年6月1日(水)～平成23年8月31日(水)(消印有効)

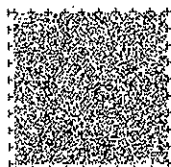
5 選考方法

埼保己一賞選考委員会での選考を経て、埼玉県知事が決定します。

6 表彰

平成23年12月に表彰式を行う予定です。受賞者には、賞状と記念品を贈呈します。

これは、音声コードです。
専用の読み取り装置の使用により
紙面の内容の音声出力が可能です。



塙保己一とは

えんきよう

ぶんせい

むさしのくにこだまごおり ほ きの むら

ほんじよう

延享3年(1746年)～文政4年(1821年) 武蔵国児玉郡保木野村(現・埼玉県本庄市)生まれ

はなわほ きいち

塙保己一は江戸時代後期に活躍した全盲の学者です。

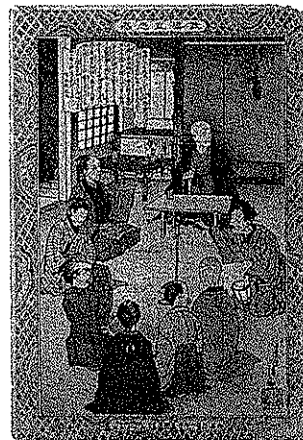
7歳のとき、病気がもとで失明しましたが、15歳で江戸に出て、学問の道に進みます。

多くの困難の中、大文献集「群書類従」666冊をはじめ、散逸する恐れのある貴重な文献を校正し、次々と出版していきました。

48歳のときには、国学の研究の場として現在の大学ともいえる「和学講談所」を創設し、多くの弟子を育てました。

保己一は、盲目の身で国家的大事業を成し遂げたわけではありません。学者として有名になり、どんなに多忙な日々を送るようになっても、目の不自由な仲間のことを忘れず、生涯、自分と同じように障害のある人たちの社会的地位向上のために全力を注いだのです。

そして、文政4年(1821年)2月、盲人社会の最高位である総検校につき、同年9月に天命を全うしました。



▲ 源氏物語を講義している保己一

ヘレン・ケラーが 目標とした塙保己一

「私は特別の思いをもって、埼玉にやって参りました。それはつらく苦しい時でも、この埼玉ゆかりのハナワ・ホキイチ先生を目標に頑張ることができ、「今の私」があるからです。」

世界的偉人として讃えられる、目も見えず、耳も聞こえず、そのために話すことも困難であった女性、ヘレン・ケラーは、昭和12年(1937年)、埼玉会館で開かれた講演会上のように話しています。



▲ 保己一の小さな像に親しげに触れているヘレン・ケラー

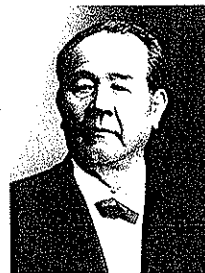
しづさわえいち

渋沢栄一が敬愛した人物

ほ きいち

しづさわえいち

保己一から遅れて94年後に、渋沢栄一が現在の埼玉県深谷市に生まれています。「日本近代資本主義の父」と呼ばれ、第一国立銀行をはじめ、鉄道、製紙、造船など500社にもものぼる企業の設立・育成に関わりました。また、福祉や教育などの社会事業にも熱心に取り組み、社会福祉事業の先駆者でもありました。保己一を敬愛し、その顕彰事業に尽力したことが広く知られています。

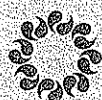


おぎの ぎんこ

荻野吟子を医師へと導く

おぎの ぎんこ

日本最初の公認女性医師・荻野吟子は現在の埼玉県熊谷市の出身です。困難にめげず医学校を優秀な成績で卒業したものの、「昔から医者には男に決まっている」と言っただけで役人たちから医師への道を拒まれていたのです。男尊女卑の壁に医師への道を閉ざされかけていた吟子を救ったのは、保己一がまとめた古代律令の解説書「令義解」でした。そこには女性の医師についての規定があったのです。これが「日本にも女性の医師がいた」という吟子の主張の根拠となったのです。



お問い合わせ先 埼玉県福祉部障害者福祉推進課

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1 TEL ▶ 048-830-3309 FAX ▶ 048-830-4789
E-MAIL ▶ a3310-02@pref.saitama.lg.jp URL ▶ http://www.pref.saitama.lg.jp/site/hanawa/

前回(平成22年度第4回)の受賞者一覧

(敬称略、内容は受賞時)

大賞

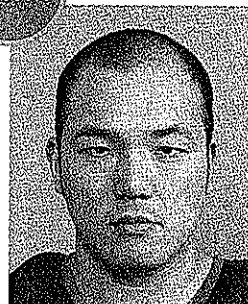


はせがわ さだお
長谷川 貞夫

(東京都練馬区)
昭和9年生まれ
視覚障害
社会福祉法人
日本点字図書館評議員

仮名体系しかなかった日本点字に、漢字を含めて表現できる「六点漢字体系」を考案し、初めて視覚障害者用ワープロを開発
「体表点字」を応用し、盲ろう者が会話のできる「ヘレンケラーホン」を開発

奨励賞



えん どう たか ゆき
遠藤 隆行

(埼玉県坂戸市)
昭和53年生まれ
両大腿1/2欠損
アイススレッジ
ホッケー日本代表

3大会連続で冬季パラリンピック出場
平成22(2010)年バンクーバー大会では銀メダル獲得、ファン・ヨン・デ功績賞受賞



貢献賞
**毎日新聞社
点字毎日**

(大阪府大阪市)

大正11(1922)年以来、視覚障害者が自ら読むことのできる新聞を発行

88年にわたり、新聞社が点字の新聞を発行しているのは、国内唯一で世界的にも例がない。



貢献賞
たかはし まさみ
高橋 昌巳

(東京都新宿区)
昭和5年生まれ
社会福祉法人桜雲会理事長

視覚障害者の生活に密着した図書を発行し、盲学校・盲団体・点字図書館等に無料配布するなど、視覚障害者への情報提供施設として重要な役割を果たしている桜雲会の理事長を、昭和51(1976)年から務めている。

